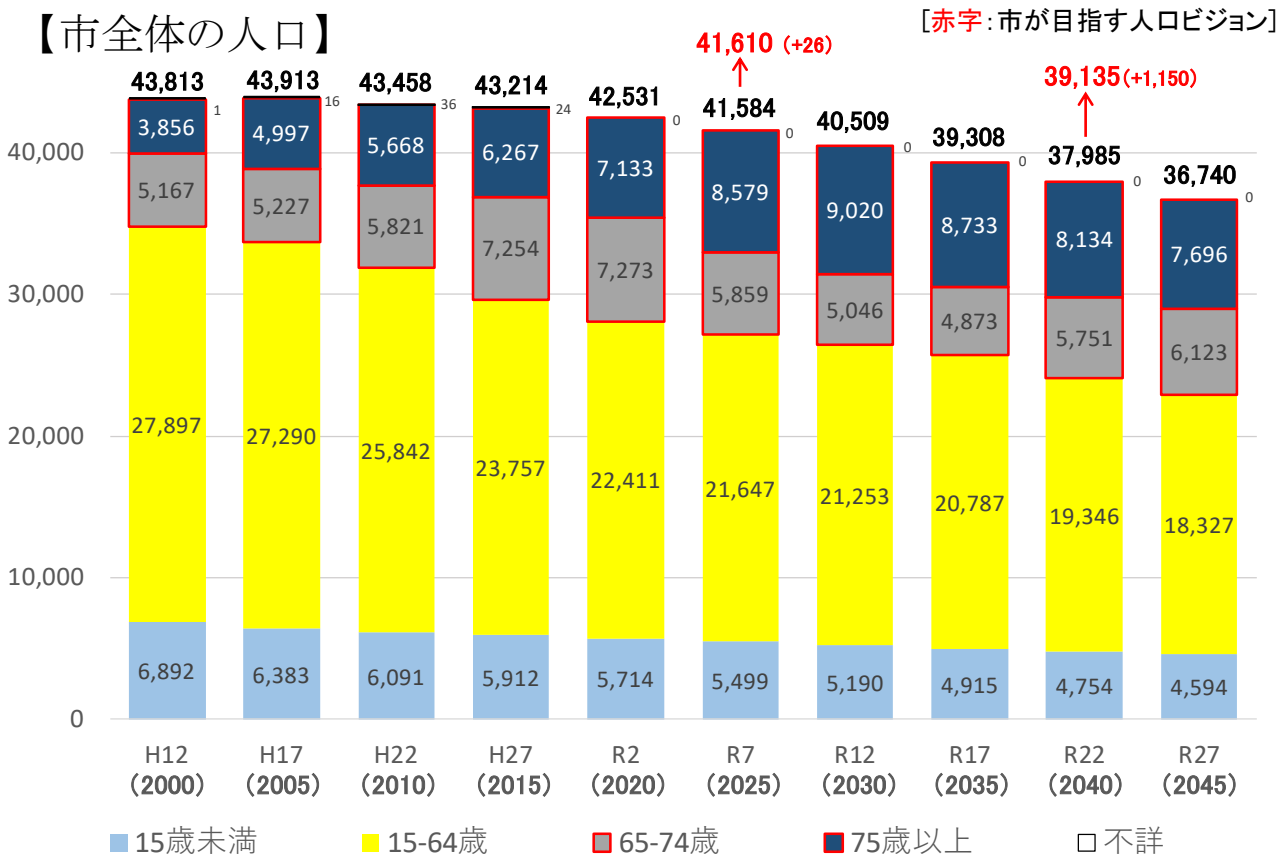


赤磐市における現況及び将来見通し (人口編)

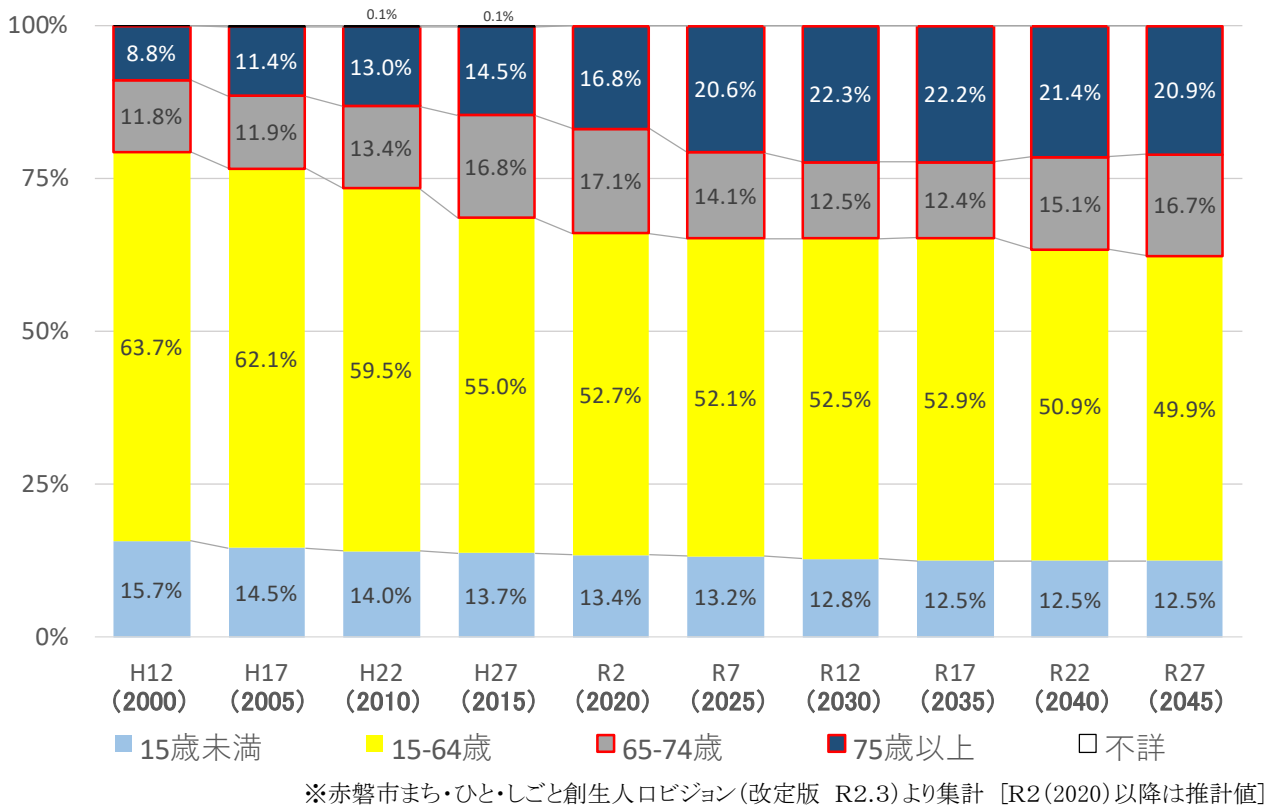
現況及び将来見通し（人口編）

■人口及び人口割合

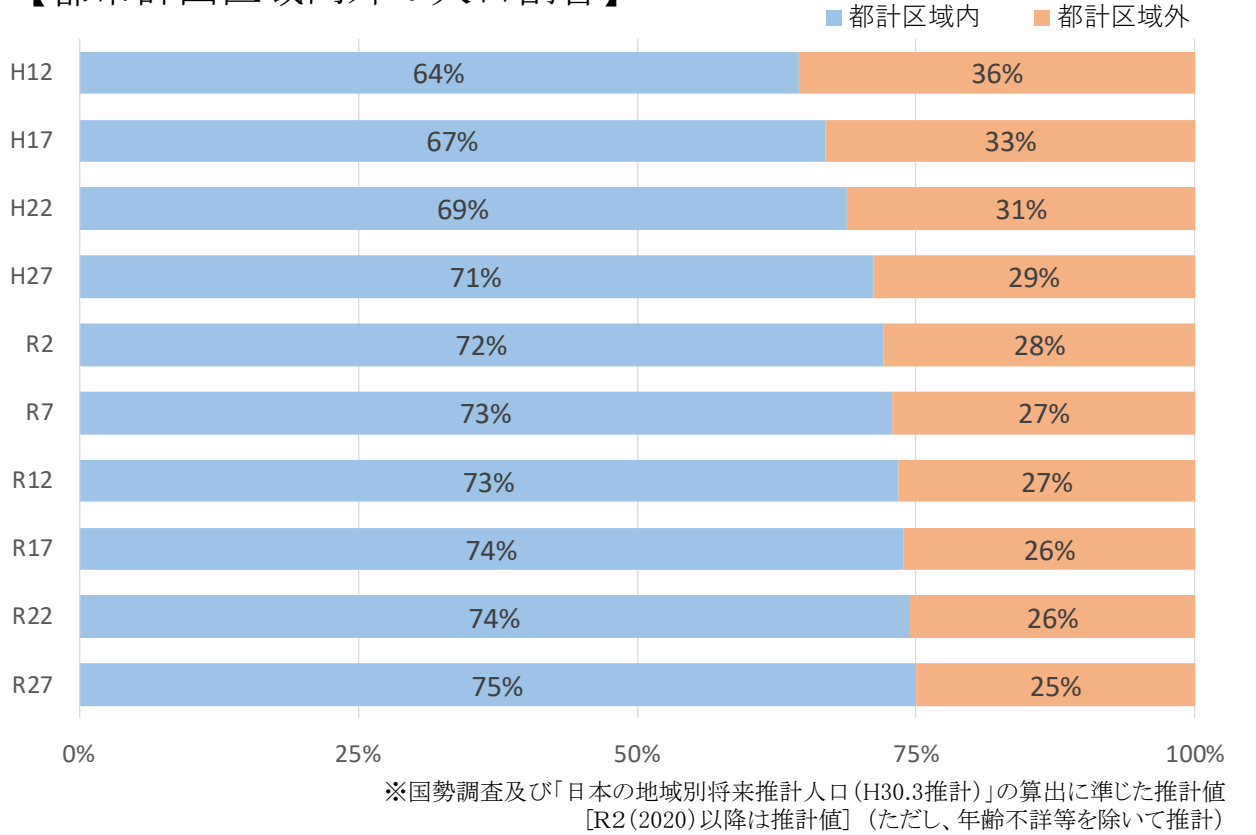
【市全体の人口】



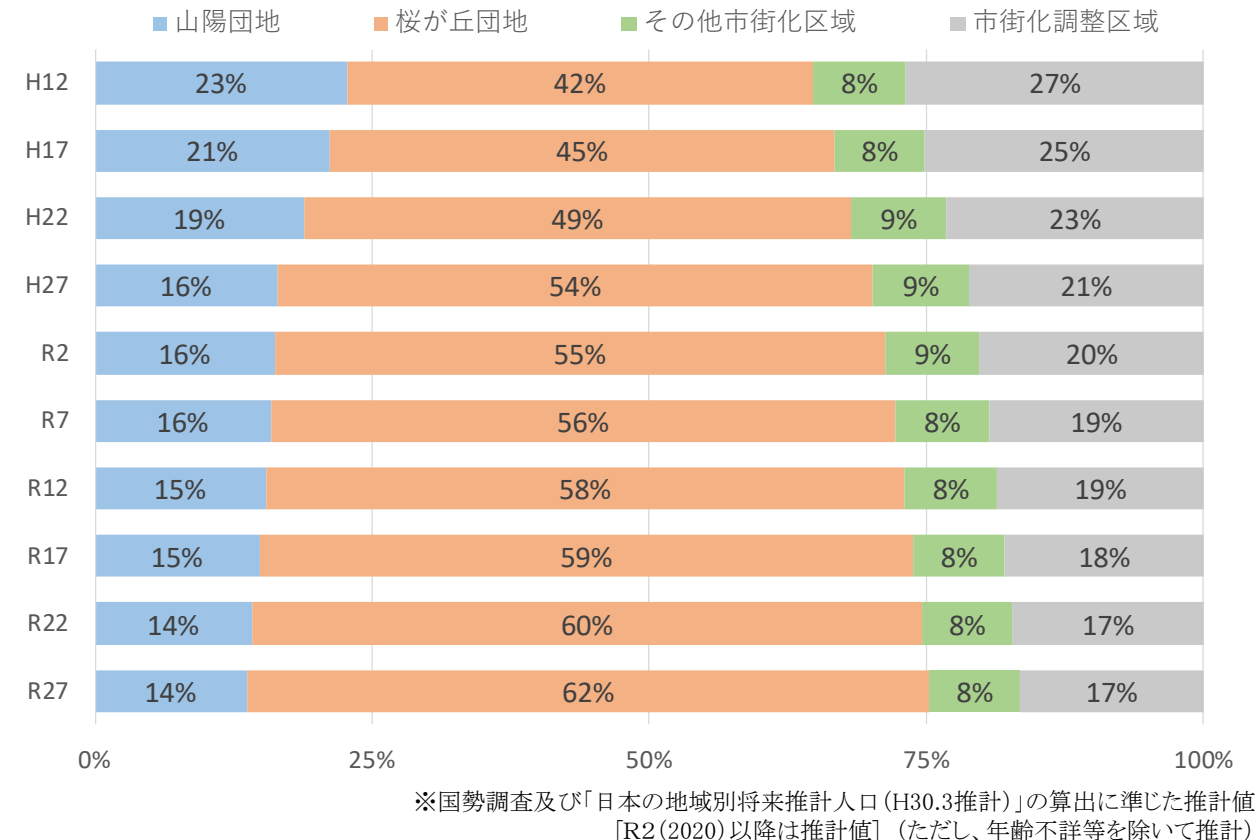
【市全体の人口割合(4区分)】



【都市計画区域内外の人口割合】

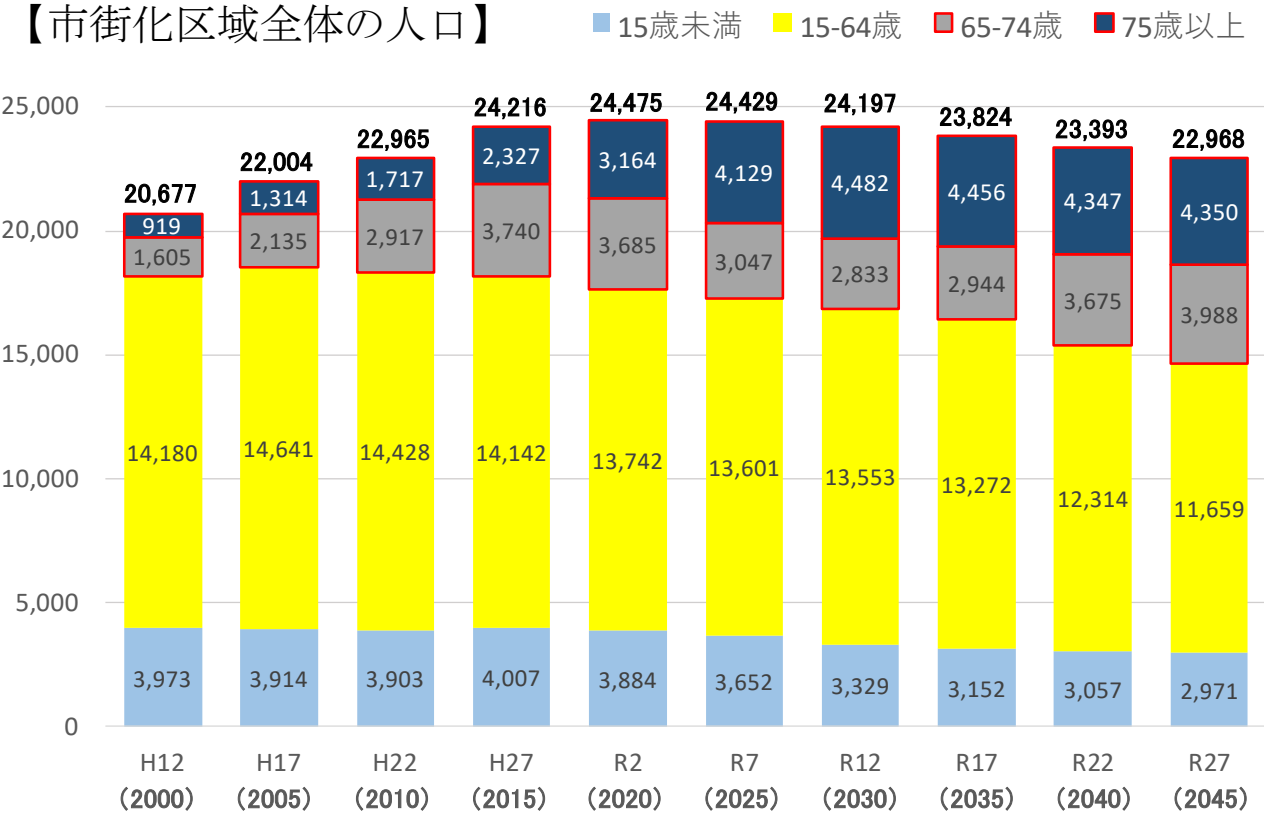


【市街化区域と市街化調整区域の人口割合】



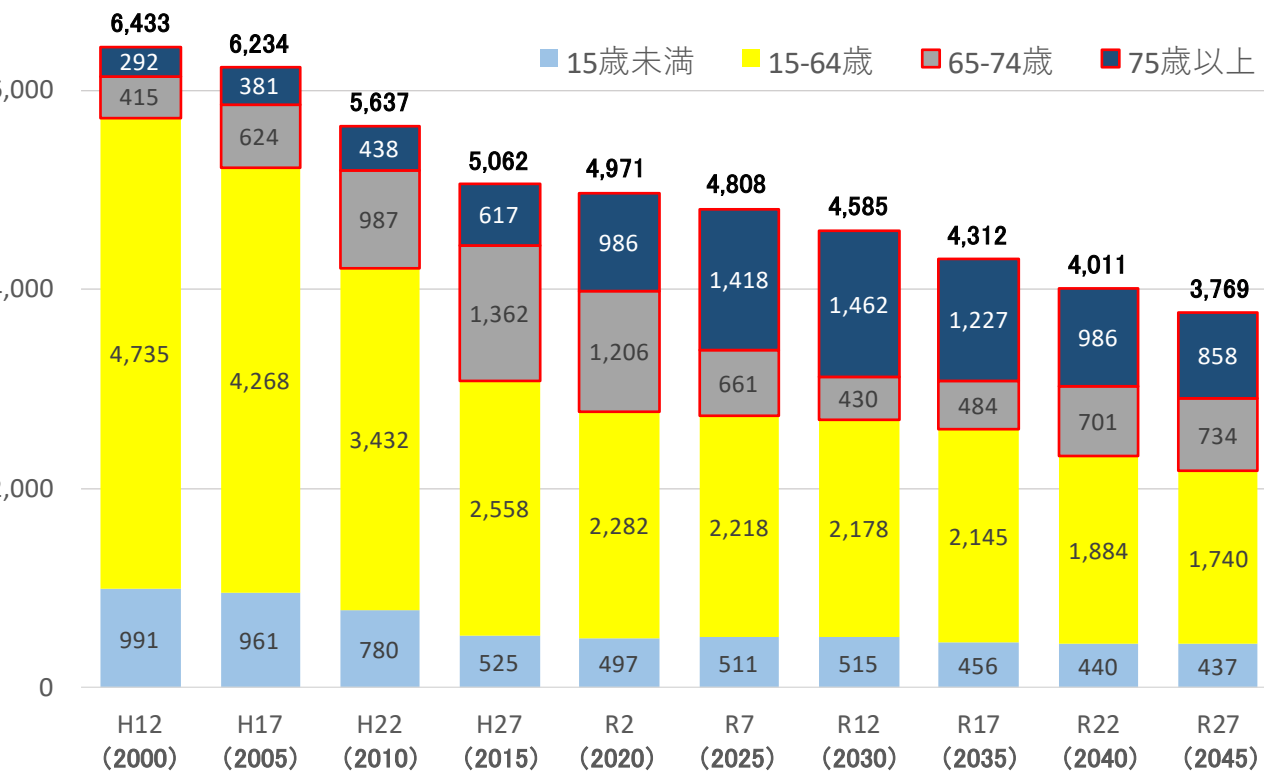
現況及び将来見通し（人口編）

【市街化区域全体の人口】



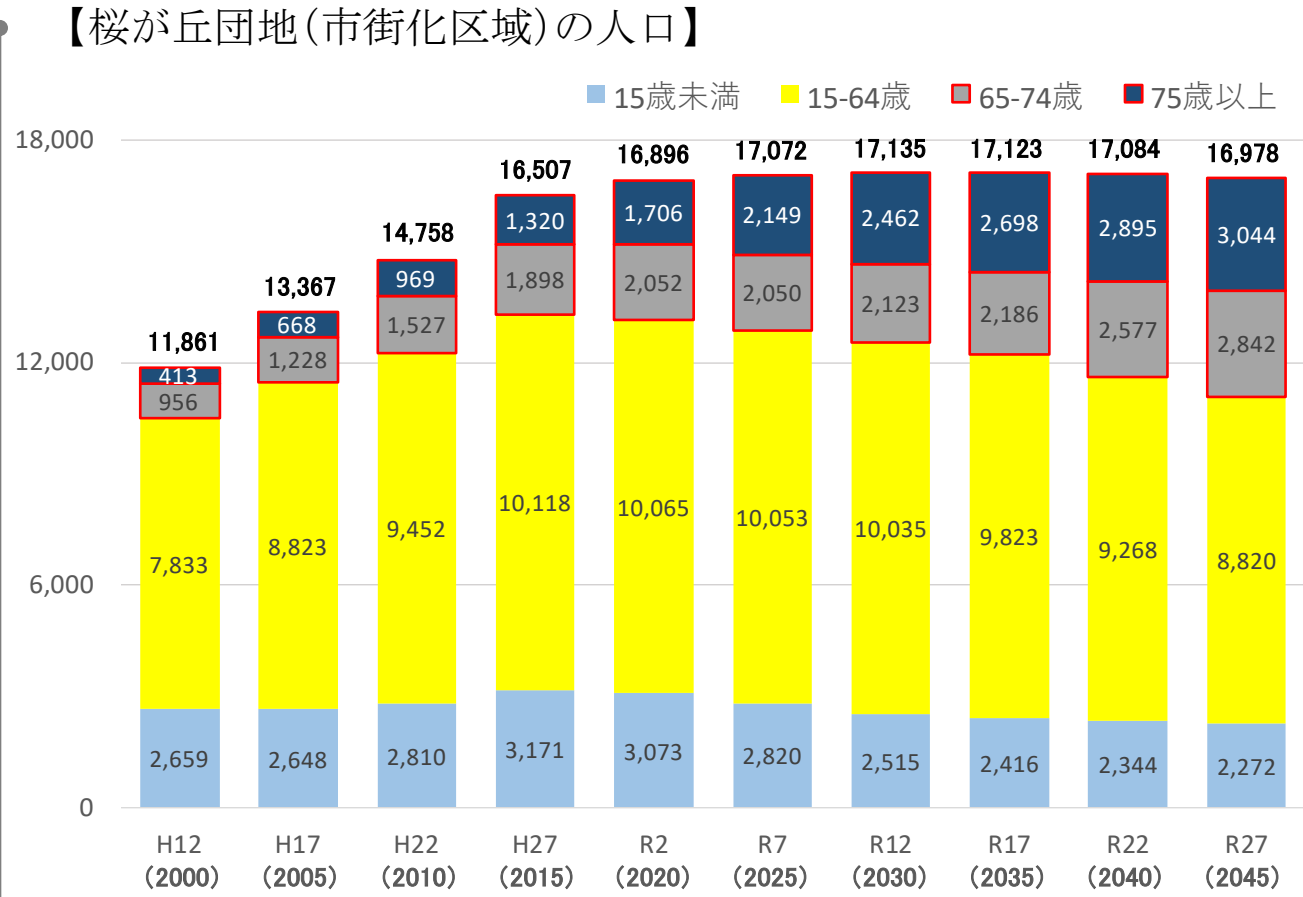
※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口 (H30.3推計)」の算出に準じた推計値
[R2(2020)以降は推計値]（ただし、年齢不詳等を除いて推計）

【山陽団地(市街化区域)の人口】



※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口 (H30.3推計)」の算出に準じた推計値
[R2(2020)以降は推計値]（ただし、年齢不詳等を除いて推計）

【桜が丘団地(市街化区域)の人口】



※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口 (H30.3推計)」の算出に準じた推計値
[R2(2020)以降は推計値]（ただし、年齢不詳等を除いて推計）

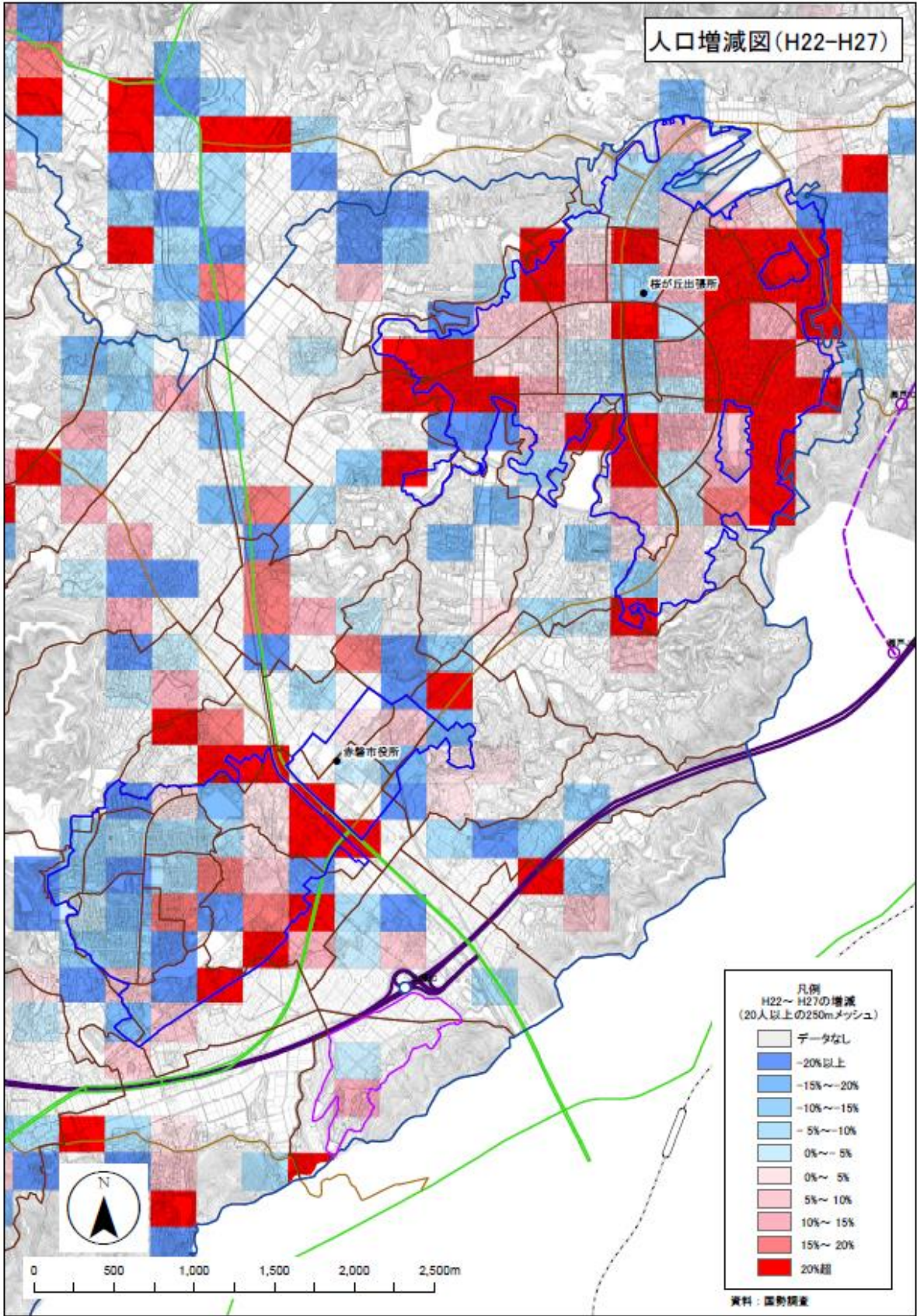
【年少人口(就学前・小学校入学)について】

学年別							(人)			
	H22. 4. 1	H23. 4. 1	H24. 4. 1	H25. 4. 1	H26. 4. 1	H27. 4. 1	H28. 4. 1	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1
0歳時	284	332	300	348	311	333	315	341	319	291
1歳時	338	315	366	339	385	337	358	345	369	352
2歳時	353	381	341	394	365	391	370	379	361	400
3歳時	364	372	406	362	405	376	409	388	384	377
4歳時	390	382	387	420	369	414	393	424	399	393
5歳時	397	406	382	391	418	378	419	397	424	399
小学校入学児童	429	392	403	387	393	407	376	429	408	425

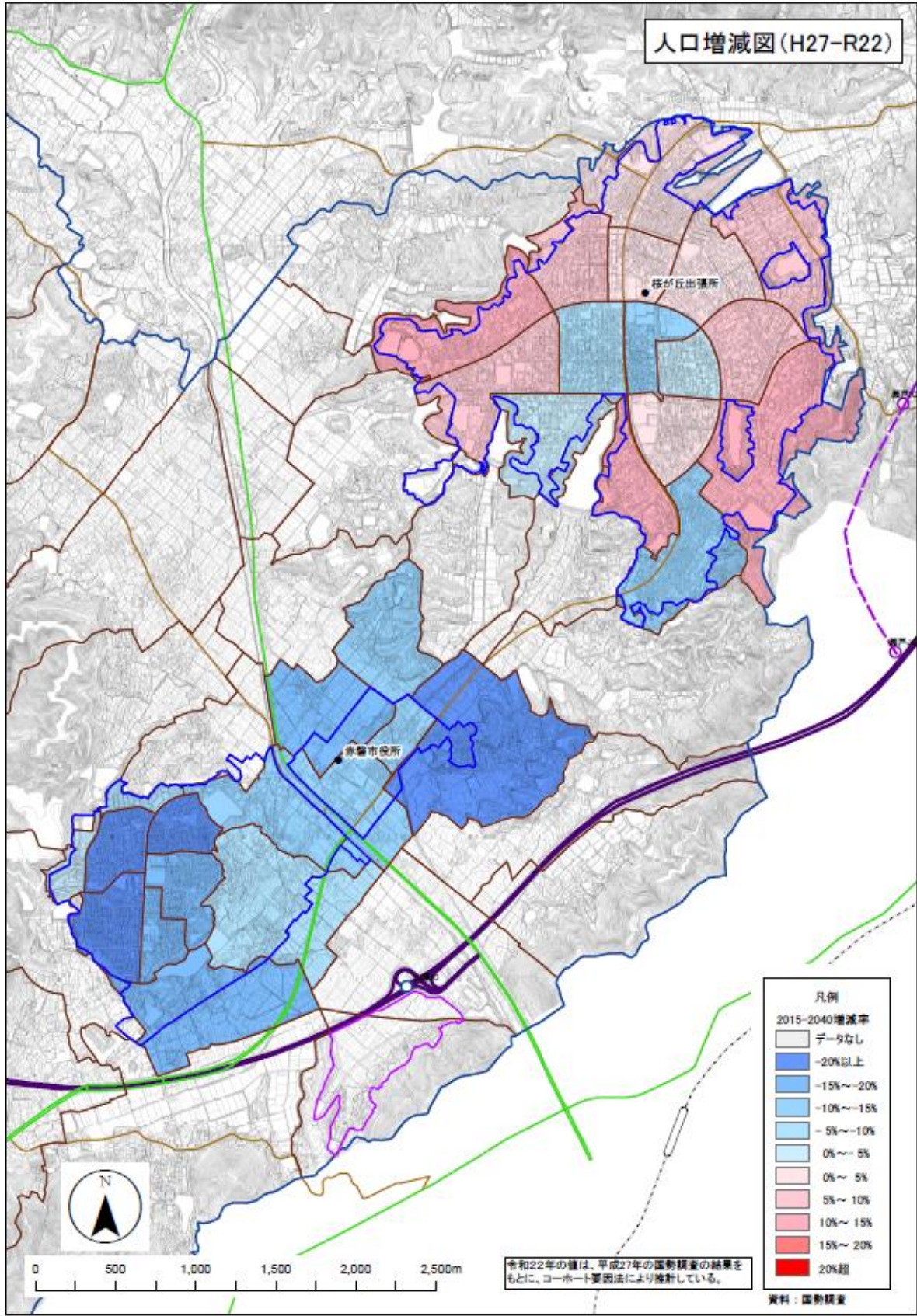
※出典: 赤磐市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(改定版 R2.3)

現況及び将来見通し（人口編）

【人口増減状況図(H22→H27)】



【人口増減状況図(H27→R22)】



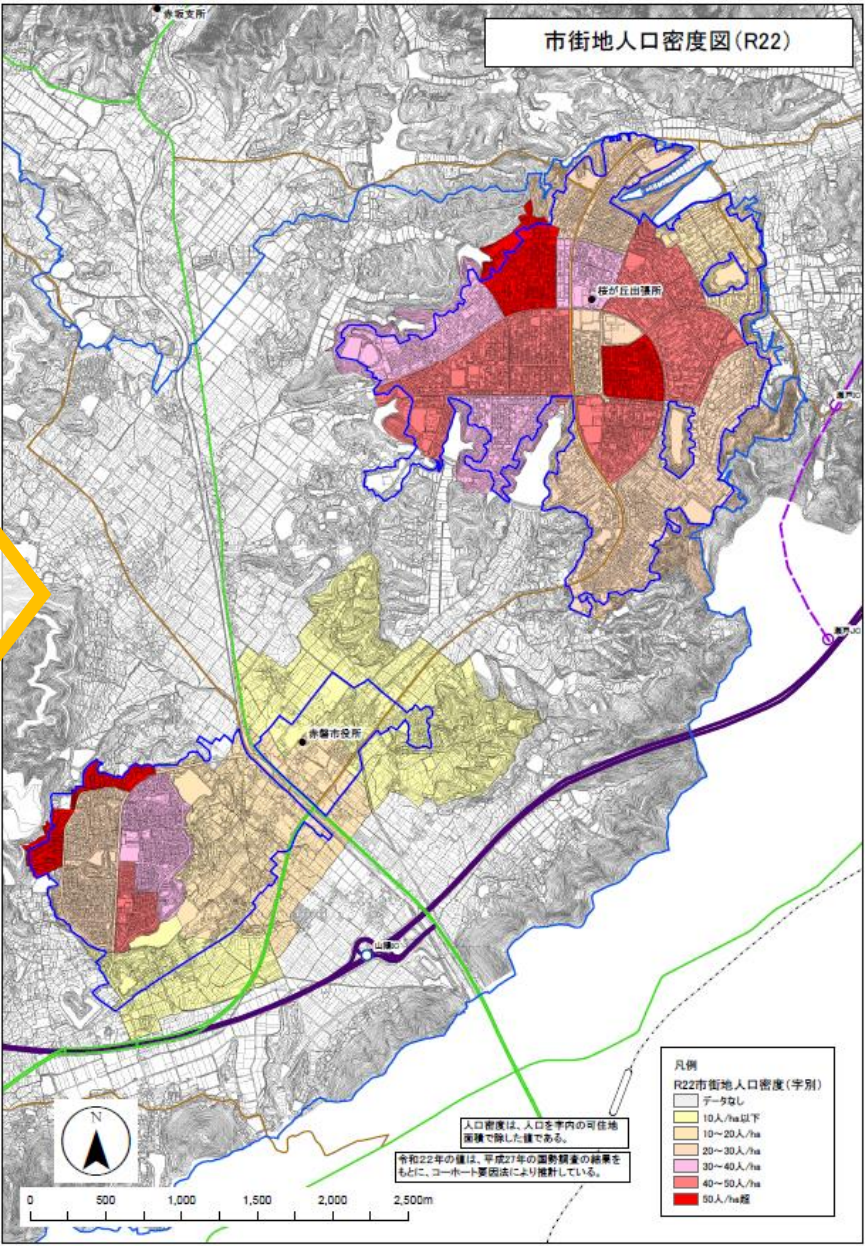
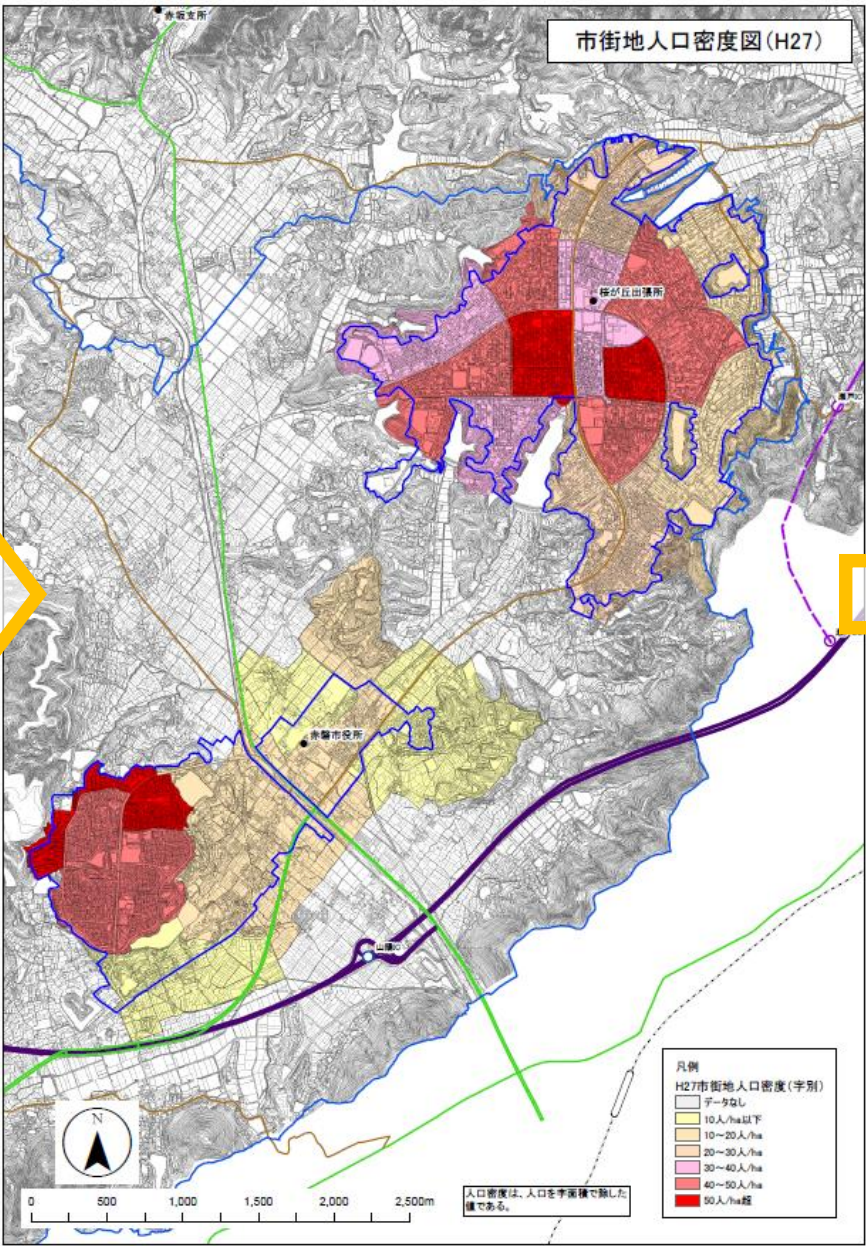
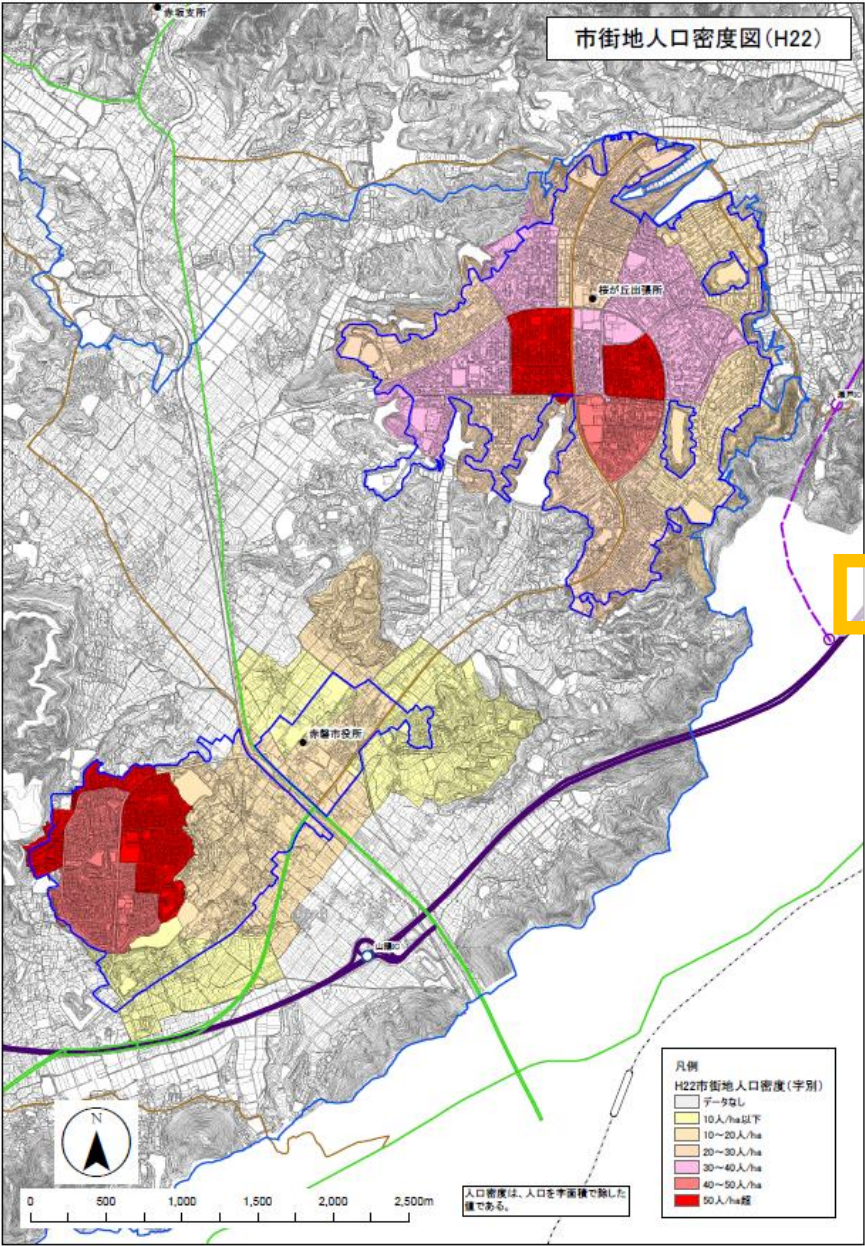
※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口(H30.3推計)」の算出に準じた推計値 [R2(2020)以降は推計値]（ただし、年齢不詳等を除いて推計）

現況及び将来見通し（人口編）

【人口密度(H22)】

【人口密度(H27)】

【人口密度(R22)】



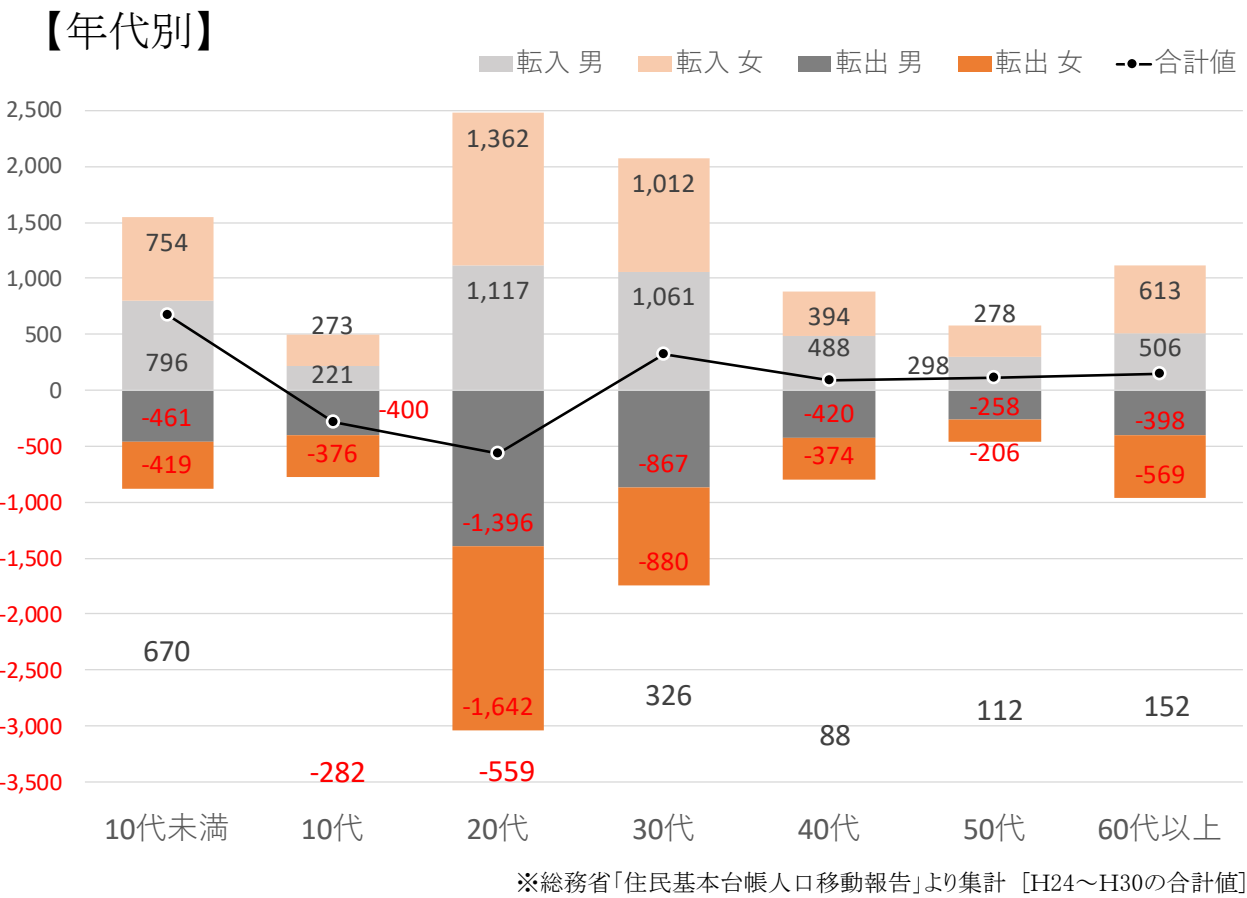
凡例
H22市街地人口密度(字別)

- データなし
- 10人/ha以下
- 10～20人/ha
- 20～30人/ha
- 30～40人/ha
- 40～50人/ha
- 50人/ha超

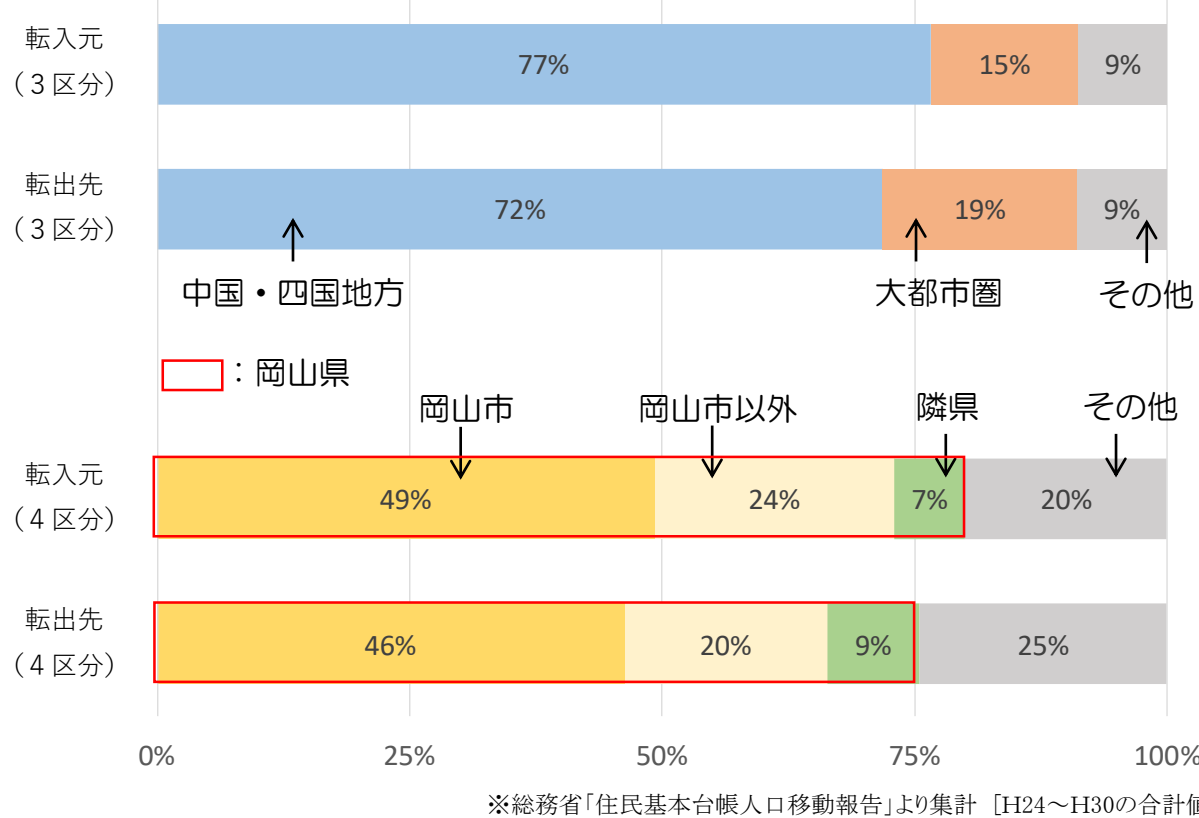
※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口(H30.3推計)」の算出に準じた推計値
[R2(2020)以降は推計値] (ただし、年齢不詳等を除いて推計)

現況及び将来見通し（人口編）

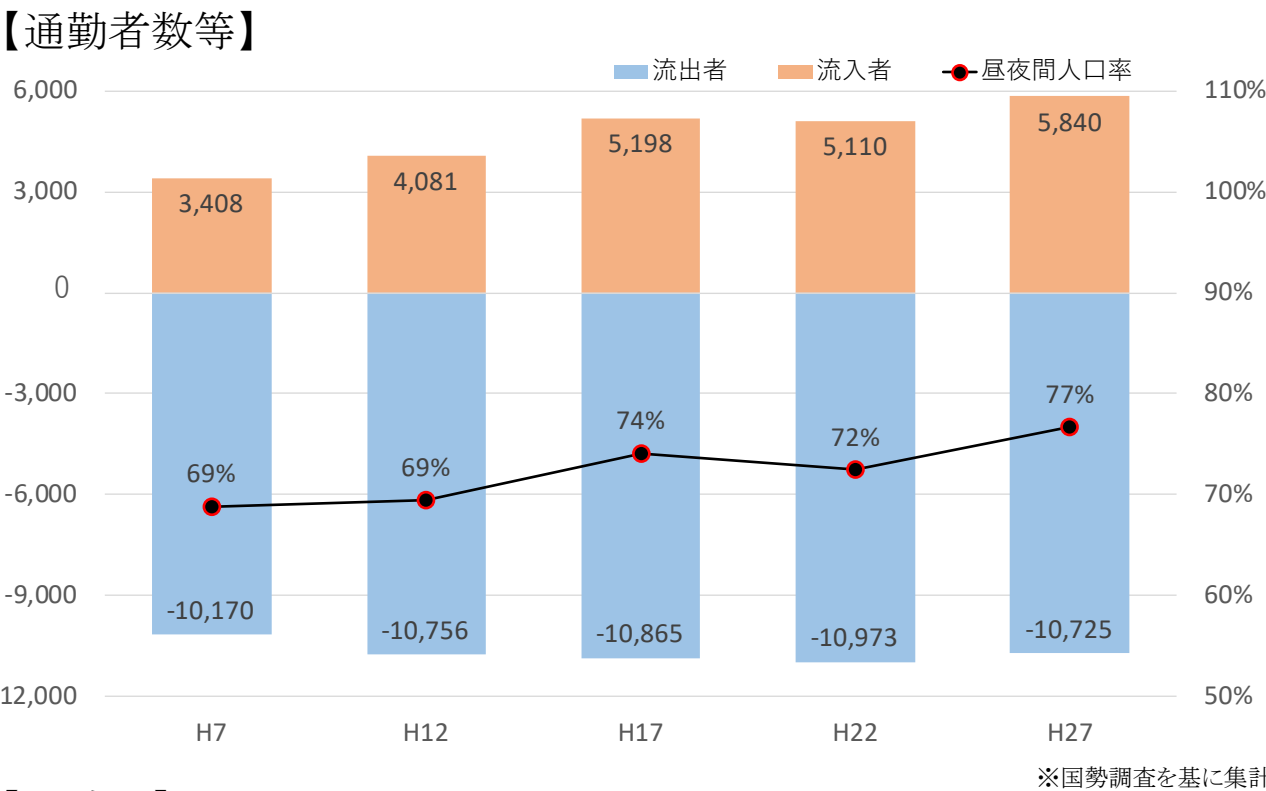
■転入・転出状況（市全体）



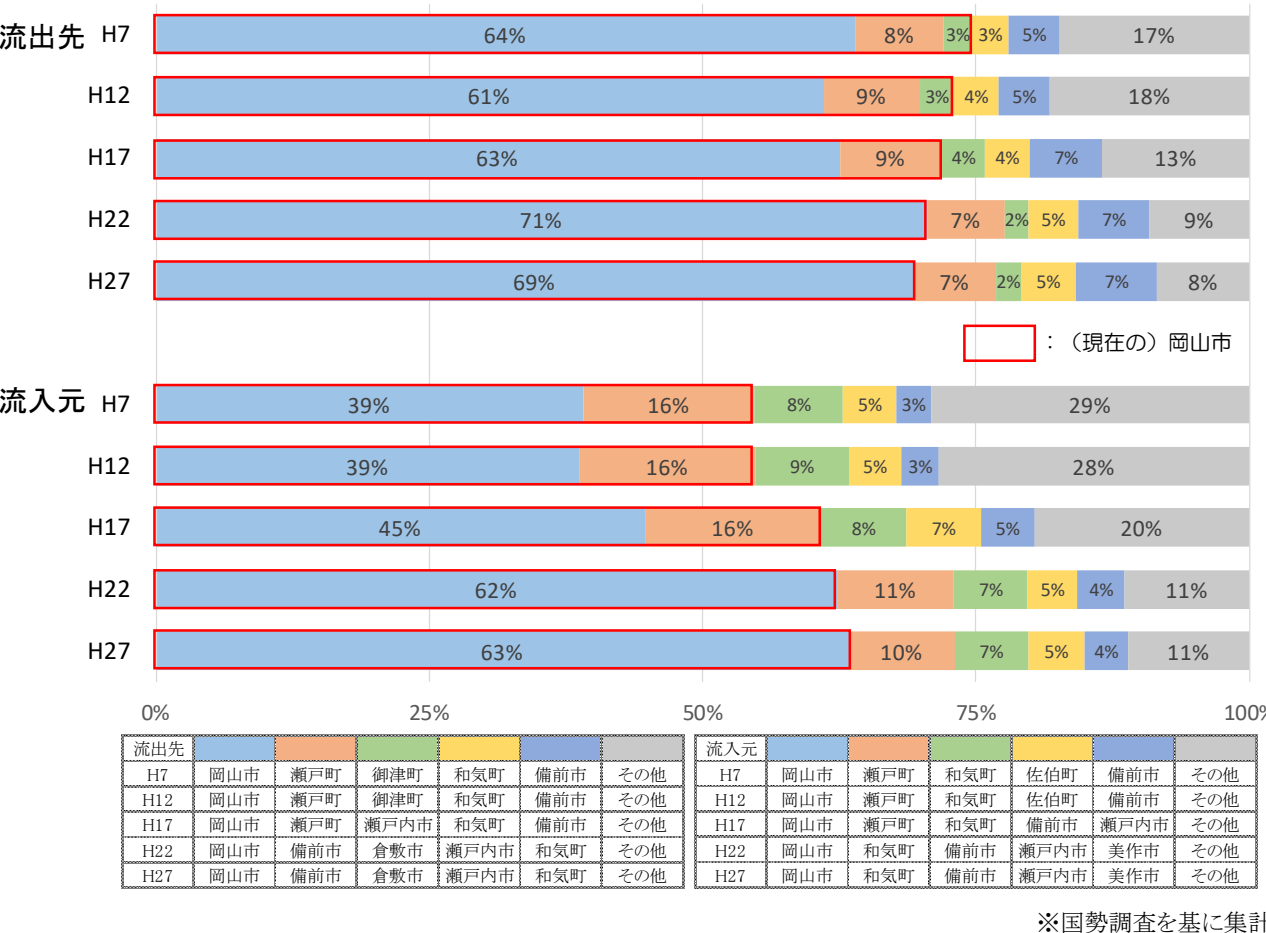
【地域別】



■通勤者の状況（市全体）

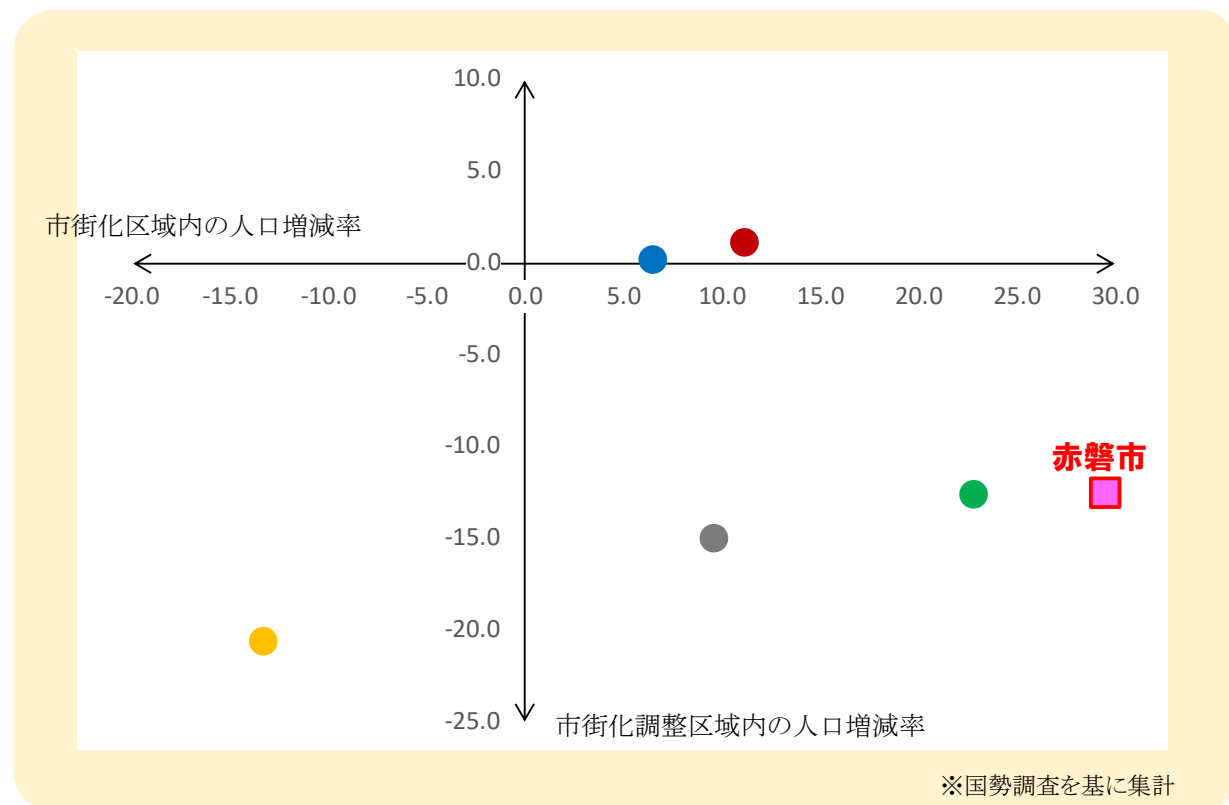


【地域別】



現況及び将来見通し（人口編）

■都市計画区域における人口推移（H7とH27の比較）



■まとめ（人口編）

- 市全体の人口は、平成17(2005)年をピークに減少しており、今後も減少が続く。また、16-64歳(生産年齢人口)の減少幅が大きいことや、後期高齢者数の大幅な増加が今後もしばらく続くことが特徴としてあげられる。
- 都市計画区域内の人口は、(市域の約18%に)市全体の約7割の人口が集まっており、今後もその割合は増加する見通しである。
- さらに、市街化区域(都市計画区域の約18%)に都市計画区域内の約8割の人口が集まっており、今後もその割合は増加する見通しである。
- 市街化区域内では、山陽団地において人口が急激に減少しており、今後も減少が続く見通しである。また、高齢化率が高止まりするとともに、しばらくは後期高齢者の割合が急激に増加する見込みである。

- 桜が丘団地においては、しばらくは人口増加が続く見通しである一方、高齢化も進む見通しである。
- 地区別に見ると、人口増加は桜が丘団地内の地区のみとなっており、山陽団地や市の中心部を含むその他の地区では増加している地区もあるが、全体としては人口が減少し、山陽団地内においては減少率が高い地区が多い。なお、桜が丘団地内においても、中央部では人口減少となる地区が見られる。
- 人口密度については、桜が丘団地内で40人／haを超える地区が多くなっている一方、山陽団地内の全地区で(現在は)40人／haを超えているが、将来は多くの地区で40人／haを下回る。
- 転入・転出状況は、10代・20代以外で転入超過となっており、特に10代未満・30代の転入超過が大きくなっている。一方、10代・20代は転出超過となっているものの、全世代の中で20代の転入数が最も大きくなっている。
- 転入・転出状況は、転入元・転出先ともに約半数が岡山市であり、岡山県全体では約7割となっている。また、大都市圏からが2割程度となっており、大都市への転出については、上の年代だけでなく10代・20代でも大きくなっている。
- 年少人口(15歳未満)全体については、減少傾向が続いているが、就学前人口及び小学校入学児童数に限ると全ての年齢において年々増加している。
- 昼夜間人口率については、改善が見られるものの80%に届かず、低水準で推移している。
- 通勤状況は、流出先・流入元ともに岡山市が6割を超えている。
- 岡山県南広域の各市町において、市街化区域と市街化調整区域の人口増減率を比較すると、本市は市街化区域の人口増加率が最も高く、市街化調整区域の人口減少率も高い。